

令和4年大山町議会議員研修報告書

1	研修名	市町村議会議員特別セミナー	
2	日時	令和4年4月11日(月)～12日(火)	
3	研修地	滋賀県唐崎市	
4	研修内容	(内容)	(場所)
		(1)地域行政と政策デザイン	全国市町村 国際文化研修所
		(2)少子化問題の日本の特徴	
		(3)行動するSDGS	
		(4)歴史的資源を活用した観光まちづくり	
5	研修結果 又は概要 (意見・感想)	(1)地方行政と政策デザイン 福井県知事 杉本 達治 ○県政運営の基本原則 職員クレド＝徹底的に現場にこだわる、志・行動規範を職員に意識づけ ○ウーダーループ ・徹底現場主義により「課題発見」→「実行」→「改善」をできるだけ早くまわす→政策トライアル予算(各課1千万) ・随時見直し「いつでも」「何度でも」積極活用 ○若手職員のチャレンジ応援＝若手職員が課長担当の業務を担う「ディレクター」を創設	
		(2)少子化問題の日本の特徴 中央大学 山田 昌弘教授 ○少子化は「日本社会の構造」に関わる問題 ・親の意識が変わらない ・「収入が不安定な男性と結婚する女性を増やす」政策を行う ・少子化対策失敗の原因 ①多様な未婚者の生の声を聞いてない ・「非大学」「地方居住」「中小企業労働者、非正規雇用者、自営、フリーランス」の声が届いていない ・未婚女性の半数は非正規→結婚して子供が生まれれば収入を失う ②少子化の日本の特徴 ・将来の生活設計「中流生活から転落するリスク」のある結婚はしない ・世間体意識一人からのマイナス評価を避けようとする意識	

5	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>これからの展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女共同参画の更なる推進 2. 多様な家族(夫婦別姓、同性愛カップル)を認める 3. 社会保障による下支え
		<p>(3)行動するSDGS—「ごみ」からのアプローチ 京都大学 浅利 美鈴準教授</p> <p>○「ごみ」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「泥。その場所を汚している、役に立たない、汚いもの」 ・「自ら利用したり、他人に売ったりできないため、不要になったもの」 <p>※必要性や価値の判断は人によって異なり、環境・時代によっても変わる</p> <p>○プラスチックの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋やストローだけの問題でなく、皆の意識・行動が揃うことが重要 <p>○京都超SDGSコンソーシアム—脱酸素型循環モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年6月産学公連携プロジェクト開始、京都・中山間地域と関係構築
		<p>(4)歴史的資源を活用した観光まちづくり バリューマネジメント(株) 代表 他力野 淳</p> <p>○会社の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を紡ぐ—「価値ある日本文化」として後世に残していく。一度失ったものは残らないし、戻らない ・課題—人口減少・過疎化、失われる地域資源 ・解決策—まちづくり事業、歴史的資源の利活用、物販、宿泊 <p style="padding-left: 20px;">神社、仏閣を税金で保全する限界がきており文化財保護法改正の流れを受け、資産運用へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例—愛媛県大洲城下町 <p style="padding-left: 20px;">城をホテルにし(一泊100万円)、町にも民泊(一泊65,000円)で、町全体の地域活性化</p>
		<p>(5)まとめ</p> <p>○すべての講師先生に言えることは、現場を大切に、自ら考え、行動を貫いているということだ</p> <p>○行政問題では、職員の意見を聞く耳を持ち、チームワークを要として、昔からのPDCAサイクルより早く行動するOODA(ウーダ)ループで短時間解決を目指す仕組みが画期的であった</p> <p>若手職員のアイデアを活かした働き方改革では、「ペーパーレス化」「在宅勤務・フリーアドレス」を拡大し、男性職員の育児休暇取得率が92.7%となっている</p> <p>若者・女性の積極登用で課長業務を担う「ディレクター」の創設も斬新な取組みである</p> <p>○歴史的資源の活用では、大山町も文化財が多く、まちの宝、活用として研究し、検討してもよいかと思う</p>